

(その四)

工場又は事業場の名称	J X T G エネルギー(株) 市川油槽所
------------	---------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

対策は以下の通り
1. 炭化水素回収装置の通年運転
2. 貯蔵タンクは浮き屋根式を使用
平成24年7月、近隣の船橋油槽所の廃止に伴い、平成25年以降排出量が増加している。
平成29年度は今年度より減少の見込み。(▲4.7%)

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社 トーカン
------------	-----------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 9									

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 I)

当社製品の主力機種^①の製造工程において、揮発性有機化合物トルエンを使用している。トルエンを使用しない新機種を開発、拡販することで、トルエンの使用量削減を図っている。

前年度に比べ拡販できたため、目標値を達成。

(その四)

工場又は事業場の名称	エイブリック株式会社 高塚事業所
------------	---------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
<input checked="" type="radio"/> C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

1) 手直し等に要する薬品使用量の削減のための継続的な削減活動に取り組む。
2) 老朽設備を計画的に更新する。
3) 揮発性有機化合物等の化学物質使用状況の適切な把握と管理を実施する。
4) 繰り返し測定による排気中の揮発性有機化合物濃度の適切な把握を行う。
5) 廃棄物に含まれる揮発性有機化合物の適切な把握と管理を実施する。
6) 回収廃液に含まれる揮発性有機化合物の適切な把握を行う。
※本年度実績値の削減率が大幅に減少したのは、実際のVOC排出量をより正確に把握できるように、見積方法を変更したためである。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	サカタインクス (株) 東京工場
------------	---------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<課題>
<対策>

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	榊城北鋳力印刷工業所 榊城北鋳力印刷工業所
------------	--------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

引き継ぎが十分に行われず、計算方法等に誤りがあった。
対策として、一覧表と計算フォームを作成し誰にでもデータを入力すれば簡単に数値が算出できるように改善した。
今後は明確な数値を基に報告書を作成するばかりではなく、削減目標の達成に活用していく。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	スリーエイ化学株式会社 木間ヶ瀬工場
------------	-----------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

昨年度(29年度は)稼働実績が4か月(12月~3月)のみでした。
尚、昨年度は期の途中での売買であったため、計画書は、前任の東武化学株式会社の9月度作成の使用量「0」の計画書となっております。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	穂高 株式会社 松戸工場
------------	-----------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

① 蒸留したパークロロエチレンの回収率を上げるためのコンデンサの洗浄を行う
② 石油用タンブラー乾燥機の回収機付き割合の増加を検討する。
③ パークロロエチレン洗浄機からの廃液用バケツ(一時受け)を密閉することで揮発を防止する
④ 石油の使用量が増えている為回収率を高める又は良好な状態を維持する為 フィルターや水分離機などの清掃をこまめに行う
今年度行った対策
① パークロロエチレンの回収率を上げるため、スラッジのかき出し以外に グラインダーによる蒸留釜内の研磨を行った。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	日立化成株式会社 松戸事業所
------------	-------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度以降	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

平成29年度は生産量増加したが、顧客殿からの洗浄依頼される製品数が減少し、 溶剤使用量が減少した。
今後も継続し、製品不良低減による洗浄対象数低減および洗浄対象製品の工程 見直しによる洗浄工程削減を推進する。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社 恵比寿加工 野田はやま工場
------------	-----------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 1	5 6	2 1	3 2	9 1	5 4				

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 1. 非揮発性有機化合物化の検討（水溶性）。
対策 2. 排ガスを蓄熱式脱臭装置に送り、燃焼させ、99%のVOC除去を図る。 平成19年3月の工場立ち上げ時より実施、実測値99%除去。
対策 3. ふた閉め等を徹底し溶剤管理を図る。
対策 4. 冷却装置の増設により蒸発量の減少を図る。
対策 5. 品質管理を徹底し、不良率の減少を図り、溶剤使用量を削減する。
対策 6. 排ガスを直火式脱臭装置に送り、燃焼させ、99%のVOC除去を図る。 平成25年4月の新設備の立ち上げ時より実施、実測値99.9%を除去。

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社 恵比寿加工 野田はやま工場
------------	-----------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

課題	平成25年3月に増設した設備の生産量は、平成26～29年度と予想していたより増加しなかったが、平成30年度に入ってからからの生産量は、増加の傾向にある。従って、29年度よりは、排出量は、増加すると予想される。
対策	(1) 非揮発性有機化合物の材料の検討(水溶性) (2) 排ガスを蓄熱式脱臭装置及び、直火式脱臭装置に送り99%のVOCの除去を図る。 (3) ふた閉め等を徹底し揮発を防止する。 (4) 夏期の工場内の気温は適度に保ち、揮発を防ぐ。 (5) 品質管理を徹底し、不良率の減少を図り、溶剤使用量を削減する。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

